

令和4年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校自己評価表

令和4年度、本校は以下のような目標・方策をもとに、教育活動を実施しました。

※評価はA・B・C・Dの4段階

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする幼きイエズス修道会の教育理念に基づき、生徒の全人格的開発を目指す。 一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして、自己形成を図ると共に、女性としての豊かな心をもって、社会の建設に貢献する人間を育成する。	総合評価
年度目標	1 一人ひとりの進路実現 2 グローバル人材の育成 3 規律ある生活態度の育成	B

	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価				総合 評価
			1	2	年間		
宗 教 部	校内の宗教的環境 の整備の徹底	教室掲示標語「月の言葉」	B	B	B	A	A
		聖堂の管理と学校内の宗教的環境作り	B	B	A		
		昼休み後、5分の黙想の習慣化	A	A	A		
	宗教行事（聖母 祭、新入生ミサ、 学院慰霊祭、 点灯式、クリスマ スミサ聖劇、キャ ロリング、 卒業生ミサなど）	コロナ禍で学院ミサができない時は放送 を通して各教室でみ言葉の祭儀、又は、 学年を分けての学院ミサを実施する等の 工夫をする。	A	A	A	A	
		コロナ禍で体育館での聖劇ができない時 は、放送での「クリスマス朗読劇」を行 う。また、クラス全体で参加できる「ア ドベントコンテスト」を後援会にお願い し協力していただく。	A	A	A	A	
	学校全体で支援し ている、チャイル ドファンドジャパ ンの2人の里子へ の募金。また、ウ クライナなどへの 支援金	行事に向けての募金活動、トラピスト クッキー販売の収益金での募金集め	A	A	A	A	
		チャイルドファンドジャパンの2人の里 子、ウクライナの子ども達への支援	A	A	A		

教務部	各教科における新教育課程への対応	授業のあり方を各教科で試行する	C	C	C	C	B
		定期考査の内容の変化	C	C	C		
		観点別評価への意識	C	C	C		
	校務支援システムの運用	システムへの慣れ	C	C	C	C	
		入力ミス・勘違いを減らす	C	C	C		
		課題を集め、カスタマイズの有無を検討	B	B	B		
	短縮授業実施の場合の授業の確保	学期ごとの授業時数の確保	B	B	B	B	
		単位数の少ない科目への配慮	B	B	B		
		授業変更による時間数確保	C	B	B		
	入学式・卒業式などの学校行事	参加人数の制限による実施	B	B	B	B	
		式場の感染対策	B	B	B		
		関係者への連絡	B	B	B		
生徒指導部	規律ある生活の徹底	制服、髪型など身だしなみの徹底	B	B	B	B	B
		挨拶などの徹底	B	B	B		
		定期的な生活検査と、事後指導の徹底	A	A	A		
		全校朝礼・終礼、または放送などによる生活全般における諸注意	A	A	A		
	いじめの防止	毎学期のイジメアンケート	A	A	A	A	
		イジメアンケートの結果による早期の対応（学校全体の取り組み）	A	A	A		
		全校朝礼・終礼、または放送などによるイジメ防止の啓発	A	A	A		
	交通事故の防止	日頃からの交通指導の徹底（歩行・自転車などのマナー）	A	A	A	A	
警察からの情報を適宜、生徒へ知らせる		A	A	A			

	防災意識を高める	日頃からの防災に対する意識付けの徹底	B	B	B	B	
		定期的な避難訓練の実施（２学期）※新型コロナウイルス感染防止の観点から中止	・	・	・		
進路指導部	体系的な進路指導の推進	受験対策としての課外及び高校３年生（共通テスト対策・個別試験）対策授業を継続して実施する。	A	A	A	A	A
		校外模試・小論文指導・面接指導を企画・立案し実施する。	A	B	B		
		２０２２年度大学入試情報収集と分析による、高３進路検討会、及び高１，２模試分析会の実施。	A	A	A		
		大学説明会・職業講話・進路講演会などを計画・実施し、生徒の進路目標が明確になるように努める。	A	A	A		
	進路実現に向けての＋αの学習や校外活動参加の促進	受験校決定や教職員間の情報共有のため学年団との会議を定期的に行う。	A	B	B	B	
		第一志望を大切にする進路指導（面談週間・文理分け説明会等）	A	A	A		
		大学入試改革に向け、学内外での活動を活動履歴（プロセス・気づき・振り返り）にまとめる。	B	B	B		
		学習に対する意識を高めるため、毎日の学習時間を（CHALLENGE CHANGE）に記録させ、１週間ごとに提出させる。	B	B	B		
		九州大学の魅力を伝えるために、高校１年生での九州大学訪問。					
	生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	進学資料（１号・２号）・進路速報などを作成し、生徒・保護者に向けて進路に関する様々な情報を迅速に伝える。	B	B	B	A	
		進学資金講演会、保護者向け文理分け説明会、大学入試改革説明会等を実施する。	A	A	A		
適切な役割分担と組織運営	年度の実態に応じ、課題確認と業務の改善に努める。	A	A	A	A		
	校務全体の円滑な推進のため、職員間の密な連携を図る。□	B	B	B			
	業務記録、資料保存に努める。	A	A	A			

広報部	校内での進路や行事に対する取り組みを積極的に広報活動に活用し、志願者層の質と量の確保に努める。	学校案内、ポスター、チラシ、広告（新聞、雑誌等）、インターネットなど様々な媒体を通した広報活動の充実と各中学校・塾に対するきめ細かい対応を心掛ける。	A	A	A	B	B
		各科コースの活動内容、実績、特色について、より具体的に明示し、志願者増（特に専願）へつなげる。	B	B	B		
		中学校・塾・個人宛の郵送物は計画的に準備し、迅速に対応することを心掛ける。	B	A	A		
研修部	研修体制の確立と実践	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全教職員による校内研修会を行う。	B	C	C	C	C
		授業研修を充実させ、見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る。□	C	B	B	B	
		校外での研修を受ける体制を整え、全教職員が積極的に校内研修に参加し、自己の成長を促す。	C	C	C	C	
普通科特	学習時間を十分に確保できる生活習慣の確立	学習記録の記入・提出をさせ、学習状況をふりかえらせる。	A	A	A	A	B
		生活・学習改善が必要な生徒には、助言・支援を行う。	A	A	A		
		短・中・長期目標を設定させ、達成に向け計画を立てさせる。	A	A	A		
	大学受験に対応できる学力の育成	予習、復習の徹底。授業の充実。授業内容の定着。	B	B	B	A	
		課外の充実。個々に応じた添削指導。必要に応じて適宜補習を行う。	B	B	A		
		外部模試を活用した学力分析を行い、教科のバランスを確認し弱点対策を早めに行う。	A	A	A		
		共通テストを全員が受験する			A		

進 コ ー ス	自分らしい社会貢 献の模索	適宜二者面談を行い、教育相談等を通して、生徒の生き方を共に考える。	A	A	A	A
		「総合の探究の時間」の充実。探究活動を通して、様々な事象に対する生徒の興味関心を深める。	A	A	A	
		活動の記録ノートの記入を通して、3年間の進路の流れを考えさせる。	A	A	A	
		ボランティア活動への積極的な参加を通して、社会が抱える問題に目を向けさせる。また、幅広い分野から外部講師を招き、進路講演を行う。	B	B	B	
	国公立大学、難関 私立大学への合格 実績	九州大学以上合格者 2名以上			C	C
		熊本大学合格者 10名以上			C	
		国公立大学合格者 20名以上			C	
普 通 科 普 通 コ ー ス	1. 落ち着いた学 校生活基本的生 活習慣を身につ ける。	挨拶の徹底。服装・髪型をきちんとする。	A	A	A	B
		教室の整理整頓。	B	B	B	
		遅刻・欠席者を減らす。（遅刻者カード活用）	B	B	B	
		保護者との連絡を密にする。	A	A	A	
	2. 基礎学力の定 着と向上 自主的 な学習習慣を身 につける。	1年次英語、数学の習熟度別クラス編成。	A	A	A	A
		授業に集中させる工夫。	A	A	A	
		課題等提出物の徹底。	B	B	B	
		課外や添削等、個別の指導の充実。	A	A	A	
	3. 生徒の個性を 見極め、上級学校 への進学を目指 した進路指導。グ ローバル時代の要 請に応じた国際理 解教育の実施。	1年次、大学や職業についての調べ学習と発表。特別授業も。	A	A	A	A
		2年次、小論文対策。本校での大学説明会（進路部主催）	A	A	A	
		英検、GTECなどの検定試験推奨と対策。オンライン英会話の導入。	A	A	A	
		受験に対する生徒・保護者向け説明会（文理分け含む）	A	A	A	

A

	4. 生徒会活動、ボランティア活動、部活動への積極的な取り組み。	生徒会活動への積極的な参加。	A	A	A	A	
		ボランティア活動への積極的な参加。	A	A	A		
情報ビジネス科	4つの凡事徹底	気持のよい挨拶と返事	B	B	B	B	B
		遅刻・欠席をしない	B	B	B		
		提出期限と手続き厳守	B	A	A		
		時間厳守と5分前行動	A	A	A		
	コミュニケーション能力の育成	相手の話をきちんと聞く	A	A	A	B	
		わかりやすく伝える	C	B	B		
		他の人に働きかける	C	B	B		
	基礎学力の向上	生活時間ノートの活用	A	A	B	B	
		課題や提出物の精度を高める	B	B	B		
	進路実現の手立て	進学指導	A	A	A	A	
		就職指導	A	A	A		
		保護者向け情報発信	B	A	A		
高校1学年	1 主体的な学習態度	予習復習の習慣化	B	B	B	B	B
		課題の精度と提出	B	B	B		
		授業への意欲的な取り組み	B	B	B		
		進路目標の明確化	B	B	B		
	2 目標をもった学校生活	無遅刻無欠席	B	B	B	B	
		清掃	B	B	B		
		係・委員の仕事の徹底	A	A	A		

		協力と協働の意識	A	A	A		
	3 ボランティアへの積極的参加	計画性	B	B	B	B	
		責任感のある言動	B	B	B		
高校2学年	環境整備	教室美化、整理整頓を徹底し、環境整備に努める	B	B	B	B	B
		朝礼、終礼、授業前後 声を出した挨拶の励行	B	B	B		
	基礎学力の定着	担任と授業担当者で情報を共有し、効果的に学習指導を行う	B	B	B	B	
		定期考査、模擬試験後など、担任と生徒の二者面談を適宜実施する	B	B	B		
	進路指導 キャリア教育	進学、就職に関する情報を発信し、次年度へ向けて生徒の意識を高める	A	A	A	B	
		資格取得、検定合格へ向けて、担任と担当教師が情報共有して積極的に生徒へはたらきかける	B	B	B		
	その他	学年通信を定期的に発行し、保護者へ情報を発信する	A	A	A	B	
		challenge changeノート、活動の記録ノートを活用する	B	B	B		
	自律した生活習慣の確立	Challenge Changeノートを活用し、学習時間を軸として起床・食事・就寝等の時間を固定させ、自己管理能力を強化する。	B	B	B	B	
		校内外を問わず、ルールやマナーを守る態度を意識させ、公共意識を高める。	B	B	B		

高校3学年	進路実現につながる学習	Challenge Changeノートを活用して、進路意識に根ざした自律学習の支援を行う。	B	B	B	B	A
		授業中心の学習リズムを定着させ、周囲に流されずに効率的かつ効果的に学習に取り組む姿勢を養う。	B	B	B		
	進路の実現	二者面談・三者面談を充実させ、科・コース、個々に応じた指導を行う。	A	A	A	A	
		進路実現の具体的な方策を共に考え、挑戦する姿勢、諦めない姿勢を養う。	A	A	A		
	社会貢献意識の育成	集会やLHRだけでなく、日々の学校生活を通して帰属意識を高める。	B	B	B	A	
		学校行事や部活動、ボランティア活動、受験勉強などを通して、自己を他者に生かすことを意識させる。	A	A	A		
	基本的な生活習慣の確立	毎日元気に登校するために、規律ある生活を意識させる。	B	B	B	B	
		挨拶、清掃、時間厳守、授業集中の重点項目の指導の徹底	B	B	B		
		面談、スコラ手帳、一週間のふり返しシートなどを活用し、生活指導の充実を図る。	B	B	B		
	基礎力充実に重点を置いた教科指導	授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びを習慣化させる。	B	B	B	B	
		課外授業の充実	A	A	A		
		ICTを活用した授業支援のための環境整備	B	B	B		

中学校	日常生活、行事、ボランティア活動を通じての人間形成	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、自己と向き合うことを習慣化させる。	A	A	A	B	B
		宗教行事、ロザリオの祈りを通じて、祈る心を養う。	A	A	A		
		全校で地域清掃ボランティア等に取り組む。	A	A	B		
	生徒会活動を通じての自主性の養成	常任委員会活動の活性化	B	B	B	B	
		生徒会が企画する活動が、生徒の主体性や統率力、協調性を育む場になるよう、支援的な指導を行う。	B	A	A		
	総合学習を通じての国際文化理解と円滑な人間関係を図る	野外活動や学習発表会を通して、自他のつながりの大切さを知りよりよく成長する場になるよう、支援的な指導を行う。	B	A	B	B	
総合学習の授業では、諸外国の文化や習慣を尊重し、理解することを主眼にし、異文化理解力の向上を図る。		B	A	B			
保健室	基本的生活習慣の確立	不調の原因と改善方法を、生徒と一緒に考える。	C	C	C	B	B
		担任と情報交換を行い、家庭や教室での生徒の様子を把握する。	C	B	B		
		保健だよりに、生活習慣について掲載する。	B	B	B		
	定期健康診断の円滑な実施	学校医や、学校歯科医、関係機関等との打ち合わせを綿密にする。	B	—	B	A	
		実施時に、感染症予防対策を行う。	A	—	A		
		実施方法について、職員へ周知する。また、服装等の準備が必要な場合は、保健委員からもクラスへの連絡を依頼する。	A	—	A		
		心臓病や腎臓病等で定期受診中の生徒へは受診を促し、また、受診結果の提出を求める。	B	B	A		

個別支援の充実	担任との情報交換を密にし、連携して対応にあたる。	C	C	C	C
	配慮を要する生徒について、関係職員へ情報提供を行う。	B	B	B	
	月に1回、校内支援委員会を実施する。	B	A	B	
	必要に応じてS CやS S Wへつなく。	C	C	C	

令和4年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校評価

◎学校生活について、生徒及び保護者へのアンケート結果

①非常にそう思う	②だいたいそう思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない
----------	-----------	------------	-----------

※生徒による評価	①	②	③	④
1 熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活で生かされている。	58.1%		34.2%	
2 礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。	81.9%		15.0%	
3 落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。	83.9%		12.5%	
4 それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。	75.1%		17.3%	
5 熊本信愛女学院に入学して良かった。	67.6%		25.7%	

※保護者による評価	①	②	③	④
1 熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活からうかがえる。	64.0%		24.9%	
2 礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。	88.3%		8.5%	
3 落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。	82.4%		10.3%	
4 それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。	76.7%		13.8%	
5 熊本信愛女学院に入学させて良かった。	84.2%		11.3%	

令和4年度 学校評価アンケート分析

令和4年度も、コロナウイルス感染症の影響が続いたが、体育祭・文化祭・学院慰霊祭等、コロナ禍以前通りとはいかなかったが、多くの行事を実施することができた。2月から3月にかけては、中高4学年の修学旅行を実施することができた。修学旅行の実施は数年ぶりのことであり、生徒たちにとってはクラスメイトとの交流を深めるよい契機になったものと思われる。令和4年度も、「礼儀やマナーを重んじる教育が行われている」「落ち着き、集中して授業に取り組める環境である」の評価は生徒、保護者ともに高く、カトリック精神に根差す、123年の伝統に裏打ちされた熊本信愛女学院の教育活動が揺るぎのないことを証している。今後もこれらを基盤にして、「それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・進路指導」をキャリア教育の観点からも効果的に実施して、生徒それぞれの進路保障に力を入れながら、「熊本信愛女学院に入学して良かった・入学させて良かった」の項目がますます高まるように努めていきたい。

学校評価委員からの意見

- 信愛女学院での学校生活や、礼儀やマナーを重んじる教育に関して良い評価が出て、とてもいいことだと思う。
- 生徒、保護者とも礼儀やマナー教育の数値が高い。私たちとしても重点に置きたい箇所です。
- ここ3年間は、コロナウイルスの関係で対外的な活動も制限されていたと思いますが、勉強以外の活動も視野に入れて、生徒に挑戦できるようなきっかけを作ってあげること大切かと思います。
- 国際化、多文化共生の推進、それにより留学生の受け入れや交換留学の推進を図ることが必要であると思います。もう一度、オーストラリアや台湾との交流を見直して国際交流を推進していくことが、信愛の魅力の一つになり、生徒募集につながると思います。
- 信愛の教育理念や目的を実践するための社会貢献活動（奉仕活動等）を積極的に実施していくことで、学校の存在感や地域貢献度をアピールすることができるのではないのでしょうか。このような活動を生徒会が中心となり、生徒会新聞等を通して在校生（保護者）や熊本の中学校及び地域社会（マスコミ）に発信していくことも大切な募集の一翼を担うことになると思います。職員だけでなく、生徒たち側（生徒会）からの発信で生徒募集に繋げて行くことが必要

であると思います。

- 「一人ひとりを大切にする教育」が重要であると思います。一人ひとりに寄り添うことができること、少人数だからこそ手厚いサポートができるという点を学院の強みにできるのではないのでしょうか。
- 後援会が中心になり、同窓会の人たちと協力して、現在熊本で活躍していたり、頑張っていたりする卒業生への協力を求めて、卒業生からの講演や卒業生との話し合いを通して信愛に必要なことへの協力をしてもらい、生徒募集に繋げていくことができるのではないかと思います。
- 「信愛に入学して良かった」という思いが、ひとりでも多く増加してほしいと願っています。それには、各学年の重点目標、先生たちの取組み、改善方策の検証が必要かと思います。全体として、先生方の努力を感じました。教育の原点は、教育を受けた結果、人間として自立し、尊敬し合い、社会生活ができる自立の思想を育てることにあります。また信愛は、市の中心にありますので、地域とのかかわり、ボランティア等も大切です。開かれた学院づくり、登下校での地域との連携も安心、安全な学院づくりには欠かせません。